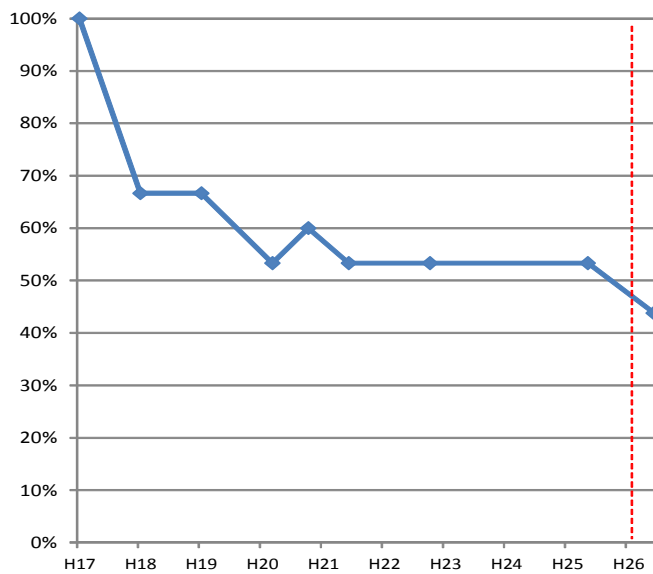


樹種名	カゴノキ（別名：コガノキ）	
科 目	クスノキ科	
学 名	<i>Litsea coreana</i>	
分 布	茨木・石川県から九州の暖地の山野に生え、大きいものは高さ 22 m 程度になる。	
樹木特性	陰樹であり、比較的老齢な森林を構成し、閉鎖された林冠下の暗い環境でも生育できる耐陰性をもつ。生育環境が良好な場合は、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は無い。 カゴノキの成木は樹皮に特徴があるので山中でひと目でわかる。	
用 途	器具材、床柱として利用。薪炭材。	
植栽本数 (植栽密度)	32 本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 常緑高木であり樹高は 15m 程度になる。樹皮は灰黒色で、まだらにはがれて白い鹿の子模様になる。新枝は褐緑色、細くて無毛。葉は枝先に集まって互生し、長さ 5~10cm の倒卵状長楕円形で先は短くつきでる。基礎部は広いくさび形、ふちは全縁。薄い革質で、表面には光沢がある。裏面は灰白色、はじめ長い毛があるが、のちに無毛。葉柄は長さ 8~15mm。雌雄異株。無柄の散形花序に淡黄色の花を数個開き、花期は 8 月から 9 月である。総苞片が 4 個ある。雄花序の総苞片は長さ 3.5~4mm の楕円形。雌花序の総苞片は少し小さく、花の数も雄花序より少ない。花被は有毛で、上部は 6 裂すし、雄花の雄しべは 9 個、花被から長くつきでる。果実は液果、直径約 7mm の倒卵状球形で翌年の秋に赤く熟す。種子は球形から卵状球形、淡褐色で上半部に黒褐色のまだら模様がある。冬芽は長い紡錘形で、短い毛が密生する。花芽は球形で葉の脇に 3~4 個つく。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 1 年で 3 割もの枯死が見られ現存率は 43 % 程度と低い結果（原因不明）となった。成長量は大きくはないがそれなりに生育している。	 
被 害	特になし。	

カゴノキ 現存率



【現存率】

植栽後、1年で3割程度が枯死した。

また、平成20年頃に枯死した個体から、ぼう芽が発生したが、それらのぼう芽も枯死した。枯死した原因については特定できていない。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は43.8%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

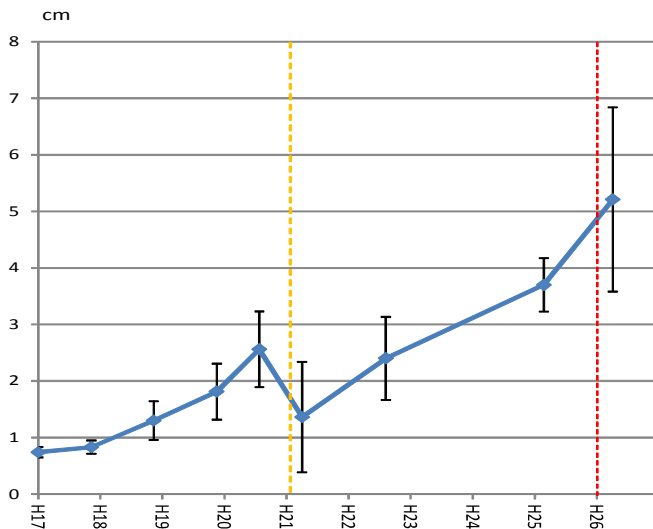
順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は5.21cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

カゴノキ 根元・胸高直径



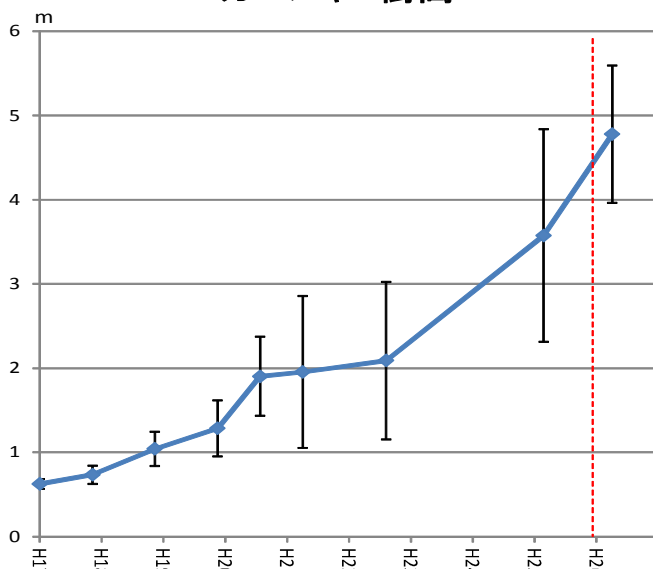
【樹 高】

植栽後、順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は4.78mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

カゴノキ 樹高



《プチ情報》

カゴノキの名前は「鹿子の木」の意味で、樹皮が鹿のこどものまだら模様に似るところからついたものである。

材は堅く、建築材や船舶材、器具材、太鼓や鼓の胴などに用いられる。また、独特の鹿の子模様を生かして床柱にされる。薪炭材としても利用される。